

## 1. 近年の環境情勢について

### « 国 »

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、移動や外出の自粛等に伴う経済活動の停滞が深刻な問題となり、また、感染予防のための「新しい生活様式」の実践例として、通信販売の利用、食事のテイクアウトやデリバリーが推奨され、結果として家庭ごみが増加するといった新たな問題が生じた。他方、資源・廃棄物制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化などの課題を踏まえた「プラスチック資源循環戦略」に基づき、7月1日からレジ袋有料化が開始され、使い捨てプラスチックに依存した国民のライフスタイルや企業のビジネスモデルからの脱却を目指している。

### « 佐賀県 »

佐賀県では、家庭や運輸部門における効果的な温室効果ガスの削減を見据え、「クールチョイスSAGA事業」として、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促すため、事業者に対する研修会や情報発信、イベント開催による省エネ製品の普及推進に取り組まれている。また、「地球温暖化対策に関する佐賀県率先行動計画」に基づき、県が率先して自らの事務・事業について温室効果ガス排出量を削減するとともに、循環型社会づくりの取組を推進する等、様々な環境施策を展開されている。

### « 白石町 »

白石町では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、例年、環境美化活動として行っている春・秋のクリーンデーの中止を余儀なくされ、また、いわゆる「巣ごもり消費」や自宅で過ごす時間が増えたことに伴う、ごみ排出量の増加により、佐賀西部クリーンセンターへの個人搬入が一時的に制限されるなどの影響が生じた。近年、町内に居住する外国人が増加しており、ごみの出し方の指導などの対応が求められている。今後も、良好な環境を保全し将来の世代に継承していくため、マナー啓発や広報による情報提供、各種施策の展開などにより、引き続き「白石町環境基本計画」の取り組みを推進します。